

カワバタモロコぎょぎょ！！

福羽このみ・樋口明日香・藤島拓樹・元永光太郎・山田壱丸・國見祐介
(兵庫県立三田祥雲館高等学校 1年)

ビオトープに生息するカワバタモロコの個体数と移動についての調査を行いました。カワバタモロコを4地点で捕まえて、異なる場所で鰭を切りました。再捕獲をした結果、あまり移動していないことなどがわかりました。

カワバタモロコぎょぎょ！！
兵庫県立三田祥雲館高等学校
福羽このみ・樋口明日香・藤島拓樹・元永光太郎・山田壱丸・國見祐介

はじめに・・・
カワバタモロコとは、日本固有のコイ科の体長4～6センチの淡水魚です。国のレッドデータリストには絶滅危惧1ランクになっており、このままでは近い将来本國に絶滅する危険性が高いといわれています。

概要
・ビオトープに生息するカワバタモロコの増殖傾向と移動についての調査。
・逃げ隠れるカワバタモロコの絶対数を調べる。

目的
カワバタモロコが絶滅してしまう理由を調べるため、ビオトープでの数の増減を調べる。

調査

1日目

A池	189匹
B池	165匹
C池	210匹
D池	250匹
合計	830匹

2日目

A池	307匹
B池	60匹
C池	141匹
D池	305匹
合計	813匹
標識魚	229匹

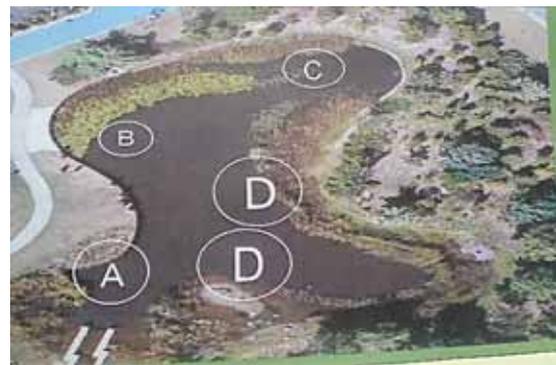
推定個体数: 2947匹
標識魚の推定個体数

① ② ③ ④

このグラフからカワバタモロコは移動していないことがわかった。

考察

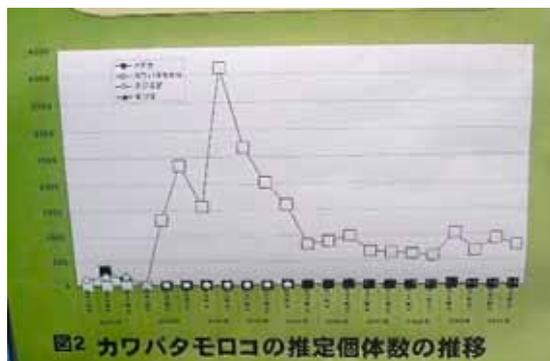
図1のグラフの結果を見ると魚はあまり移動していないということがわかりました。今回の実験の1日目の採取個体数が830匹でした。さらに図2のグラフからカワバタモロコを導入した2002年から2003年では1500匹、2004年からは、4000匹と増加傾向でしたが2005年から1000匹前後で安定してきています。これは大きな変化もなく、過去の自然の水辺が再生してきていると考えました。



各地点の標識魚がどのように移動しているのか

このグラフからカワバタモロコは移動していないことがわかった。

図1 各班の魚の分布



考察

図1のグラフの結果を見ると魚はあまり移動していないということがわかりました。今回の実験の1日目の採取個体数が830匹でした。さらに図2のグラフからカワバタモロコを導入した2002年から2003年では1500匹、2004年からは、4000匹と増加傾向でしたが2005年から1000匹前後で安定してきています。これは大きな変化もなく、過去の自然の水辺が再生してきていると考えました。